

研究活動報告

日本人口学会2004年度第2回東日本地域部会 「リプロダクティブヘルスの最近の動き」

2005年5月7日(土)午後、東京大学医学系研究科教育研究棟にて日本人口学会の東日本地域部会担当理事である大塚柳太郎会員(国立環境研究所理事長)を座長として開催され下記2題の報告がおこなわれた。

1. 「リプロダクティブヘルス：最近の国内事情」 林 謙治(国立保健医療科学院次長)
2. 「リプロダクティブ・ヘルスとミレニアム開発目標」 池上清子(国連人口基金東京事務所所長)

林会員はまず習志野市で小学4年生の母親約4,000人を対象に実施した意識調査を基に、2人目以上の出産を促進する要因として、35歳以上で女性が安心して子供を産み育てられる環境、父親の働き方の見直し、ほどよい地域性の確立などが注目されると述べた。またリプロダクティブ・ヘルス/ライツの要素の一つである「自己決定」には難しい倫理的問題が含まれることを、最近の尊厳死に関する議論と絡めて論じた。池上会員は、1990年代に開催された一連の国連会議やサミットで採択された国際開発目標と2000年の国連ミレニアム・サミットで採択された国連ミレニアム宣言を統合して2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の意義、とりわけリプロダクティブ・ヘルス/ライツとの関係について述べた。MDGsには今後開発途上地域を含め世界的に深刻化する人口高齢化が視野に入っていないといった不十分な点もあるが、2015年まで世界の開発問題に関連する様々な取り組みにおいて最上位の指針としての位置を保つことになり(ちなみに1994年にカイロで開かれた国際人口開発会議で採択された行動計画も期間は2015年まで)、その内容を理解することは世界の人口・開発問題を考える上で非常に重要といえる。17人の出席者があり熱心に質疑がなされた。

(佐藤龍三郎記)

日本人口学会第57回大会

日本人口学会(会長：阿藤誠・早稲田大学人間科学学術院教授)の第57回大会は2005年6月4日～5日、神戸大学六甲台本館にて開催された。大会運営委員会(委員長：高橋眞一・神戸大学経済学部教授)のご尽力により190名の参加者があり(非会員含む)、2日間にわたって活発な研究発表と討議がおこなわれた。シンポジウム、テーマセッション(1, 1, 3)および9部会18セッションに及ぶ自由論題の組織者、報告題目、討論者等は以下の通りである。

シンポジウム 「“団塊の世代”のゆくえ」

<組織者>高橋眞一(神戸大学)

<座長>高橋重郷(国立社会保障・人口問題研究所)

<討論者>渡辺真知子(明海大学)